
妖怪 お気に入りはずし

山口

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

妖怪 お気に入りはずし

【Nコード】

N9831X

【作者名】

山口

【あらすじ】

このサイトには妖怪がいる。奴は今日も、お気に入り登録したり解除したりして作者の反応を楽しむのだ。

妖怪キター！

俺は山田太郎、高校生。

最近「小説家の野郎」というサイトで自作の小説を発表している。ここには「お気に入り機能」という便利な物がある。小説をお気に入り登録すると自分のリストに追加され、ワンクリックでそのページに移動する事ができるのだ。

少し補足しておこう。読者に自分の小説をお気に入り登録されると、自動的に2ポイント入る。解除されると2ポイント減る。

人気がある作者はドカドカとポイントをもらえるが、俺はいつまでたってもゼロのままだ。

もう十万字以上書いてるのに、本当にふざけてる。タイトルもキャラクターもストーリーも完璧なのに、どこが悪いのかさっぱりわからない。

ちなみにタイトルは「俺、最高」。キャラは自分がモデル。

ストーリーは、主人公がバカップルたちにケーキをぶつけまくるという痛快な物だ。

これをどっかの新人賞に応募したら受賞確定だろう。選考委員の目がふしあなじゃなければね。

なのに、このサイトの連中ときたら一人もお気に入り登録してくれない。俺の作品が高尚すぎて理解できないのか？

「うがああー、お気に入りをくれ！ お気に入り登録しやがれえええ！」

自分の部屋でパソコンの画面を見ながら何度もリロードしていると、表示が変化した。

「お気に入り登録1件 総合評価2ポイント」

うおお、来たあああ！

ガッツポーズをしてから跳びはねまくった。遂に来たよ。俺の力作をお気に入り登録する奴が現れた！

「ひゃっほー！」

それにしても、誰が登録してくれたんだろう。さっぱりわからない。

まあいいや。それより、新着の小説でも見てみるか。

ほら、お気に入りゼロの作品が並んでるぜ。こいつらは俺より下なんだ。頭が高い、立場をわきまえよ。あつはつはつは！

ん、とんでもない奴がいる。

お気に入り登録12310件、総合評価24620。ば、化け物か！

タイトルは「異世界で花嫁になりました」だと。こんなのが評価されて俺は2ポイントとか、何かの間違いと思えない。

えーと、作者名は「妖怪・お気に入りはずし」。

なんだ今の。もう一回見てみよう。

「妖怪・お気に入りはずし」

え……え？

まさかコイツ、お気に入り登録したりはずしたりして作者の反応を楽しむ悪党か？

そういう奴がいるっていう話は聞いた事がある。なるほど、コイツだったのか。

こんなのにお気に入り登録されたら悲惨だ。どんなのが登録されてるのか見てみよう。

「妖怪・お気に入りはずしさんのお気に入り小説『俺、最高』」

絶望シター！

ふ、ふぎゃああー！

よりによつて、俺の小説を登録するとは。こうやってぬか喜びさせて、後でさくつと解除する気だな。

でも、前もつて犯人を突き止める事ができたのは不幸中の幸いだつた。これなら、お気に入りはずされたとしても精神的ダメージは少なくて済む。

それにしても、こいつが書いた小説の人気はすごい。「小説家の野郎」に掲載されている約十万の作品の中で、累計ランキング2位だ。

いや、待て。お気に入りはずしなんていう血も涙もない所業をやつてる以上、感想欄は荒れてるに違いない。きつと、被害にあつた作者たちの怨嗟の声で満ちあふれているだろう。

よし、さっそく見てみようじゃないか。

まず、鈴音さんの感想。

「ラファエルかつこすぎ！ こんな彼氏がいたら最高だと思ひます。更新がんばってください！」

ふん、次だ次。姫いちごさんの感想。

「世界観がしっかりと構築されていて、引き込まれます」

あつそ、よかったね。

次、雪つさぎさんの感想。

「壮絶な過去を持ちながら明るく振る舞うラファエルもいいですし、主人公のけなげさにも好感が持てました。今まで読んだネット小説の中で最高傑作だと思います！」

なんだそれ。実は、今まで十作品くらいしか読んでないんじゃない

いのか？

ちくしょー、賛辞ばっかだ。批判のコメントをくれ！

次、アンコロネットさんの感想。

「私は、この作品が嫌いです」

おお、キタキター！

「なんの変哲もない少女が異世界に転生し貴族に見初められるなんて、話が出来すぎていると思うからです」

そうだそうだ、もつと言ってやれ！

「でも、ラファエルは大好きです」

ん、風向きがおかしいぞ。

「彼がエミリアを守るためにたった一人で戦い、最後に力尽きた時

……私は、涙が止まりませんでした」

なんだこいつ、ツンデレかよ。ふざけんなあー！

感想はダメだ。嫉妬で頭が狂ってしまう。

よし、活動報告を見てみよう。このサイトでは自分専用のページで、読者たちに向けて活動報告をする事ができるのだ。

きつと「今日は、お気に入り10件はありました。気持ちいい」

なんてほざいているに違いない。現場を押さえて文句言ってる。

さあ、お前の本性を見せてみる！

「お気に入りはずしさんの活動報告」

よーし、来い！

「累計アクセスが5800万超えました。ありがとうございます！」
ぎ、ぎゃあああー！

なんてケタ違いなんだ。でも俺の小説だって……見る！

「『俺、最高』の本日のアクセス 3」

う、うぎゃああああー！

感想キター！

本日のアクセス、たったの3。

って、もう午後6時だぞ。日付が変わってから18時間たってるんだよ。

それなのに、たったの3……マジで？

う、うわあああああー！

世の中間違ってる。妖怪の小説がウケて、俺の小説がウケないなんてー！

俺は床に倒れ込み、右へ左へと転げ回った。ちくしょう、ふざけんな。なんで、このサイトの読者たちはこんなに見る目がないんだよおお！

「ふぎやあああ！　いてええええ！」

つ、机に足をぶつけた……これも全部、妖怪お気に入りはずしが悪い！

こうなったら、妖怪退治してやる。あいつの感想欄にきついメッセージを書いて、心をへし折っちゃられる！

……怒りの余り、日本語がおかしくなってきた。もう末期だ。

とりあえず、新発売の飲料「スーパーメガトンアトミックスラッシュボンバートルネード」でも飲んで落ち着こう。

ペットボトルのキャップをはずし、スーパーメガトン以下略を口に流し込んでみる。

「ぶげぶぐはあああつ！」

ま、まずい。しょっぱくて辛い。誰だ、こんなもん作ったアホはまずすぎて鼻から噴き出したじゃねーか！

一体、何が入ってるんだ？

「原材料：食塩、唐辛子、水道水」

こら、消費者なめてんのかー！

こんなひどい目にあったのも、全部お気に入りはずしのせいだ。

この恨み、晴らさしておくべきか！

さあ、奴の作品の感想欄に書き込んでやるぜ！

「はつきり言って駄作。こんなもん誰だって書ける。俺の小説の方が百倍おもしろい」

メッセージ送信っと。

ふー、やれやれ。これで、奴が涙目になる事間違いないし。俺って超天才！

「はっはっは、ふわーはっはっはっは！」

これで気が晴れた。さあ、夕飯でも食べてこよう。

一時間後。

俺は再びパソコンの電源を入れた。さあ、今日も我が最高傑作を更新しよう。

と思ったら、画面に見慣れない文字が。

「感想をいただきました」

な、何。誰かが俺の作品に感想を書いてくれたのか。

ふ、ふ……まあ、当然と言えば当然だ。史上最高・宇宙最強・スペシャルグレートハイクオリティなこの作品を読んだら、誰だって感想の一つも書きたくなるだろうさ。

絶賛の嵐、カモン！

「ため吉さんの感想」

イエス、イエス。カムヒアー！

「つまらないです。以上」

……は？

いや、なんかの間違いだろ。もう一回見てみよう。

「つまらないです。以上」

ケンカ売ってんのか、このド畜生おおおお！

お前なんかなあ、お前なんかなあ。鼻の穴に指突っ込んで、鼻毛を一本ずつ抜いてやるうっう！

返信キター！

まあいい、きつとこいつには見る目がないんだろう。

つか、たぬきち。タヌキが人間様の小説に感想書くんじゃないやねえええ！

お、他にも来てるよ。どれどれ。

「まんまるねこさんの感想」

ふん、また動物かよ。ちゃんと文章読めるのか心配だな。

「適当すぎる世界観、記号以外の何物でもないキャラクター、加えて起伏ゼロのストーリー。これ、小説ですか？」

……はい？

こいつは何を言ってるんだ。

小説サイトに小説として投稿してる文章が、スーパーのチラシにも見えるのか。大根一本百円とか、俺がどっかに書いたのか？

こら、まんまるねこ。お前は、どこか暖かい所で丸くなってる！
ん、他にも感想が来てるぞ。すごくな？

「照り焼きチキンさんの感想」

つか、怒涛の様に感想が来るのはなんでだ？

累計ランキング2位の小説を酷評したからなのか。それとも、その作者にお気に入り登録されてるからなのか。

まあいいや、内容を見てみよう。

「主人公のハイテンションがウザい」

ぷぷぷぷつ、ぷぴー！

ヤバイ、怒りの余り発狂しそうだ。このチキン野郎、レンジでチンしておいしくいただいてやろうか？

ほ、他にも来てるぞ。どれどれ。

「チラシの裏にでも書いてろ」

ぬおおおお、ふおおおおー！

もしこいつが目の前にいたら、鼻に人差し指と中指を突っ込んで

から往復ビンタしてやるのにいいい！

うーん、腹の虫が収まらない。こうなったら、究極のストレス発散法でスッキリしよう。いくぜ、ティッシュの舞！

まず、箱入りのティッシュを用意致します。次に、中から一枚ずつティッシュを取り出します。

そんでもって、それを所かまわず投げて散らかします！

「はいやああああー！」

ふはは、部屋中をティッシュが乱舞してるぜ。どうだ、参ったか。こんな極悪非道な事ができるのは、世間広しと言えど俺だけだろう！「恐れおののけ、愚民どもがああー！ ふわっははは、はーっはっはっは！」

ティッシュをばらまきまくった後、一枚ずつ拾い集めて重ねた。

ああ、めんどくさい。ストレス溜まる……って、全然ストレス解消になってないじゃん！

くそう、これも全部お気に入りはずしのせいだ。よし、こうなったら文句を……ん、あれっ。なんかメッセージが出てるぞ。

「妖怪・お気に入りはずしさんが感想に返信しました」

へ、返信キター！

あれだけ酷評してやったんだし、さぞかしムツとしてる事だろう。俺だけム力つくのは不公平だしな。ざまあ見る。

さあ、返信を読ませてもらおうかな。

突撃ダー！

さあ、どんな反撃をしてくるのか楽しみだ。たぶんこんな感じかな？

「総合評価2ポイントの小説が、累計ランキング2位の小説よりもしろい？ 馬鹿も休み休み言ってください。どちらが上なのかは、きっちり数字が証明しているじゃないですか！」

そう言われたら、こう返してやるんだ。

「それは、このサイトの読者に見る目がないだけだ。お前も含めてな！」

ざまー見る、この妖怪野郎！

さあ、返信を読んでみようかな。

「初めまして。感想をありがとうございます」

おれなんか、どーだっていい。

「駄作であるとの指摘をいただき、自分の力量不足を痛感しました」
あっそ、それで？

「少しでも読者の方々に楽しんでいただける様、精進していくつもりです。では失礼します」

ぷ、ぷぴー！

なんだこいつ、噛みついてくるかと思ったのに。なんで大人の対応をしゃがるんだー！

「ちくしょー、全然怒ってねえ。骨折り損じゃねーか、むきやー！」

俺は、ティッシュを投げ散らかして暴れた。部屋の中を再び白いティッシュが乱舞する。

「ほんぎゃー、ふぎやぎやぎゃー！ 悔しい、悔しいいー！」

くつつ、さつき拾い集めたばかりなのに……このストレス解消法はもうやめよう。

次に、台所から1・5リットル入りのペットボトルを持ってきた。中身は空だ。

それにマジックで「お気に入りはずし」と書き、机の上に転がす。これで準備は完了だ。

「ふっふっふ、お気に入りはずし……この俺を怒らせた事を、後悔するがいい！」

さあ、処刑タイムがやってまいりました。いくぜ！

「ほあちゃー！」

ペットボトルを目がけて、思い切り右手を振り下ろす。ぶっ潰してやるらるれら！

ところがその時、ペットボトルが床に転がり落ちた。目標を失った俺の手刀が机を直撃する。

「ほぎやぎやぎやー！ い、いてええええー！」

余りの痛さに床を転げ回り、今度は机に足をぶつけてしまう。

「んぎゃああー！ どしえええええー！」

ち、ちくしょー。これも全部あいつが悪い。お気に入りはずしのバカ野郎！

くっ、もう感想を書くのはやめだ。他の方法で戦うしかない。

それにしても、お気に入りはずしてどんな奴なんだろう。ユーザ情報を見てみよう。

「10歳〜19歳 女性」

なんだ、この大ざっぱな情報は。小学生と大学生の判別すらできねー！

ん、なんかバナーが貼ってあるぞ。その上に説明もある。

「お気に入りはずしさんのブログ」

ふっ、これが妖怪の巣か。さっそく突撃してやる。

俺の怒りを思い知れ！

シビレター！

俺は「妖怪・お気に入りはずし」のブログをクリックした。

さあ、爆撃してやるっちゃ。読んだら心が折れる様な言葉を書き込んでやるっちゃー！

「むははは、むははははは！」

バカ笑いしながら画面を見ると、トップページに写真が映っていた。

白いブラウスに赤いネクタイ、赤いプリーツスカートを着たサイドテールの女の子だ。

妖怪を名乗るくらいだし、きつと不細工だろう。そう思いながら写真を見た途端、俺は鼻血を噴いてしまった。

「ふんによおおおー！」

な、なんてこった。超絶美少女じゃねーか！

ぱっちりした目に小さな鼻、白い肌にチェリーピンクの唇。輪郭は非の打ち所がないほど整っている。あと、制服の上からでもわかるほど胸が大きい。

こんなのが街を歩いていたら、間違いなく男たちは振り向くだろう。

く、くうつ……どうすつぺや。

なんか、文句を言い辛くなってしまった。このブログにネチネチ書き込んで、ストーリーカー扱いされたら嫌だし。

ちよつと待て。これ、本人なのか。実は別人ってオチもあるだろ。そーだ、きつとそうに違いない。この妖怪め、俺をだまくらいしやがって。人間様をなめんな、むぎゃー！

ん、他にも写真がある。さっきの子が何か書いたプラカードを持っているよ。

えーと、書かれてる文章はと。

「妖怪・お気に入りはずしでーす」

ほ、本人ぎゃわわわあー！
畜生、ブログを見るのはやめだ。このままだと惚れてしまう。」
小説家の野郎」へ撤退じゃー！

……うーん。どうしよう。

奴をギャフンと言わせてやりたいのに、こっちがギャフンと言わ
されてしまった。

よし。こうなったら、再び奴の感想欄に突撃だ。今度は読者ごと
巻き込んで、地獄の底へ突き落としてやるぜ！

うししし、うしししし。牛しししシマウマ！

……我ながら、言ってる事が意味不明だ。そろそろ病院に行った
方がいいかもしれない。

さあ、気を取り直していつてみよう。「異世界で花嫁になりました」
を爆撃だ。

しかし、感想数528って怖ろしいな。しかも、その全部に返信
してやがる。敵ながら侮れない。

さて、書く文章はこれだ。

「この駄作が支持されてる理由は、作者がかわいいからだ。支持し
てる連中は女ばかりに見えるけど、実はネカマに違いない」

ちなみにネカマっていうのは、男のくせに女のふりをしてネット
に書き込む連中の事ね。

よーし、送信。ぽちつとな！

これで、読者たちは怒り狂うだろう。ざまー見ろ。将を射んとす
ればまず馬からだ、ぷぎゃー！

炎上シター！

その翌日。

高校から帰宅した俺は、自分の部屋にあるノートパソコンの前に座った。

お気に入りはずしの読者もへこましてやった事だし、気持ちよく小説の続きを執筆しよう。

……と思ったら、見慣れないメッセージが。

「活動報告に書き込みがありました」

へえ、誰かが俺の活動報告にコメントしたらしいな。「応援します。がんばってください！」とかだろう。

書き込んだユーザは雪月花、20歳〜29歳の女性。どうやら、見知らぬお姉さんのハートをわしづかみにしちゃったようだね。

なんて罪な男なんだ、俺は。もほほほほほ！

さあ、コメントを見てみよう。

「『異世界で花嫁になりました』が駄作？ 誰にでも書ける？ ブーメラン発言乙。あなたの小説こそ駄作じゃないですか。小学一年生にでも書けるレベルですよ。あ、もしかして一年生ですか？」

何言ってるんだ、この女は。「乙」ってなんの略なんだよ？

おつ、おつ……おつかれ様。いや、なんか違うな。おつ、おつ……おつばい。

おつばいの略か、なるほどねー！

すると、この人が言ってるのは「ブーメラン発言おつばい」か。たぶん、自分の巨乳をさりげなくアピールしたいんだろう。

いくら俺が好きだからって、誘惑するのはやめてほしい。

お、他にも来てるぞ。どれどれ。

ユーザ名「アジカン大好き」、10〜19歳の女性。アジの缶詰なんてあるのか。サバ缶ならよく見るけど。

えーと、コメントはと。

「私たちがネカマって、何を根拠に言ってるんですか？ 変な言い
がかりはやめてください。迷惑です！」

くくつ、ネカマが釣れた。ムキになって怒ってるのが、何よりの
証拠だああー！

おお、他にも来てるよ。すげーな俺、大人気じゃんか。

ユーザ名「BL同好会」、10〜19歳の女性。はあ、今度は腐
女子っすか。

さてさて、コメントはと。

「中二病をこじらせた様な主人公もひどいですけど、作者はもつと
ひどいですね」

う、うるしゃああーい！

ムキー、ム力つくうう。こんなイケメンをつかまえて、何がひど
いって抜かしやがるんだああー！

……あ、なるほど。人気を独り占めしてる事が。そりゃ悪い事
をした。他のユーザが見たら嫉妬するよね。

他にも十件以上コメントが来てるけど、めんどくさいから読むの
やめよう。俺も忙しいんだ。

まあ無反応つても悪いし、コメントしておこう。セクシーお姉
さんには個別に返信したいとこだけど……仕方ない、「あなたを意
識してますよ」っていうアピールだけはしておくか。

ハズサレター！

さあ、はりきって返信してみよう。

「みんな、おっぱいコメントありがと！……じゃなくて、いつばいコメントありがと。こんなに多くの読者の方々に応援していただき、感無量です。これからもがんばりまくっちゃうよ！」

よし、送信つと。我ながら完璧だ。

さて、自分の小説のアクセスでも見るか。

うつ……すげえ。今日だけで691人。いよいよ俺も人気作家の仲間入りか、ひゃーはっはっはっ白菜！

……まずい、また妙な事を。なんで白菜が出てくるんだよ。俺は白菜よりキャベツの方が好きなんだ！

つて、んな事はどーでもいい。これだけアクセスがあつたんなら、当然お気に入りも増えてるだろう。まあ200件はかたいよね。

小説情報、カモーン！

「お気に入り登録数 0」

……ん？

「総合ポイント 0」

んんー？

なんだこりゃ、どーいう事だ。

もしかして、これは……1件しかないお気に入りはずされた？「ふんぎゃああああああー！死ぬうつうつウホウホッ！」

俺は自分のベッドにダイブし、頭を抱えながら転げ回った。

わかってたよ。あいつにお気に入りにはずされる事はわかってたんだ。

だから心の準備をしてたのに……それなのに。

1件しかないお気に入りがなくなる事が、こんなに辛いなんてえええエンドウ豆！

うつうつ、涙が……涙が止まらないよ。

お気に入りが3ケタも4ケタもある奴に、絶対この気持ちはわかりっこない。増してや5ケタある奴なんて、蚊にチヨップされたほども感じないだろう。

お前ら、一回体験してみろ。死にたくなるぞ。

「ちくしゃう！ あの妖怪めえええ円高ユーロ安！」

も、もう日本語すら怪しい。なんだよ、ちくしゃうって。

こうなったら、近くのドブ川に飛び込んで死んでやる！

……と、その前に。あいつの感想欄に遺書をプレゼントしてやる。」「あなたにお気に入りをはずされたので死にます」ってな！

ふふふ、ざまあ見やがれ。

あ、そうだ。書き込む前に感想欄を見てみよう。俺の事が話題になってるかもしれないし。

どれどれ……って、おお？

なんか荒れてないか、これ。

今まで熱烈な支持者だった女の子たちが、ものすごい勢いで作者に噛みついてる。一体何をやらかしたんだ、あいつ？

とにかく、じっくり読んでみよう。

「ラファエルを死なせるとか、マジありえないし！ ふざけんな！」

「ハッピーエンドを期待してたのに失望した。もう二度と読まないから」

「お気に入りはずしさんは鬼ですか？ 最低な作者ですね！」

うーん、怖ろしい。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9831x/>

妖怪 お気に入りはずし

2011年11月4日06時06分発行